

Special Essay

研究のススメ

内科学講座(消化器内科部門) 光山慶一

臨床研修医制度の導入により若い医師の研究離れが懸念されています。しかし、将来臨床医を志す皆さんにも、是非一度は研究をすることを勧めます。

研究は時間と労力の無駄で、そんな余裕があるなら少しでも多くの臨床経験を積むべきだと考える人がいるかもしれません。しかしながら、日常臨床では書物から得た知識や経験の蓄積だけでは対応できない場面にしばしば遭遇します。このようなときに威力を発揮するのが研究の経験です。

研究では未解決の課題に対して仮説を立てそれを立証しなければなりません。もちろん結果が予想通りになるとは限りませんが、その過程で培われる科学的なものの見方・考え方は、臨床で遭遇するさまざまな難題を解決するためにも大いに役立ちます。研究をすることは、研究医だけでなく臨床医を目指す人にとってもかけがえのない財産になるのです。

近年、基礎医学の成果を臨床現場に橋渡しする「トランスレーショナルリサーチ」が推進されています。基礎と臨床、大学と企業が密に連携して研究を進める機会が増え、臨床医を目指す人にも医学研究がより身近なものになってきました。臨床経験者ならではの視点・発想からの研究が、新たな診断法や治療法の開発のために求められているのです。

臨床医を志す人にとって臨床と研究は車の両輪のようにどちらも欠くことができないものです。是非、臨床と研究のいずれも経験して、より質の高い医療を施せる医師になってください。

